

さわやか愛知とともに歩んでくださるケアワーカーの一人ひとりを ご紹介していくコーナーです。

ゲストは 長尾正己 さん

日本経済の高度成長期が終わり、安定成長の時代に入った1970年代に端を発した日本鉄鋼業界のリストラの嵐を経て、1990年代には経済停滞の時代を迎える。要職まで務めた製鉄会社を辞した後、見込まれて、大府市と愛知県の折衝の仕事をしているとき、地域のコミュニティでさわやか愛知の川上理事長と出会う。

「パワフルな女性だな」それが、第一印象だった。

「六畳ほどの小さな部屋で団体を起ち上げて、姑の世話をしながら…。よくやるもんだな、とびっくりした」が、気がつくと、たすけあいの会の協力会員として活動していた。

さわやか愛知の発足当時を知る大先輩である。買物ドライバー、通院介助、麻雀相手、話し相手と、一緒に会員になった妻と、精力的に多彩な活動をこなした。

「学生時代に勉学せずに、将棋・囲碁・玉突きなどに興じたが、それが役立ったんだな」

多趣味で行動力に富んだ人である。還暦を迎えて水泳を始め、週に2~3回、1.6kmを泳ぐ。大病治癒後の今も、毎日一時間の全速カウオーキングを続けている。

「あの頃は、福祉という概念が、まだ世間に確立する前の時代だった」

そんな頃、社会福祉法人長福会デイパーク大府の設立の仕事の誘いがあった。

地元の友人が理事長で、ぜひ事務長にと請われた。

ケアハウス・デイサービス等を立上げ、特別養護老人ホームを作り上げる大事業である。

開業してから、自身もヘルパー二級の資格を取りに名古屋まで通った。

以降75歳で退職するまで八面六臂の活躍で、そして全力で、走り続けて来た。

今、ようやく一息ついたところ。

妻と、伊豆の娘の家の近くの別荘で、悠々自適の生活を送る。晴天の日には畑仕事を、冬には薪ストーブの傍らで孫と戯れる。それでも、人望の厚さから、サラリーマン時代の部下や福祉業界の仲間から、頻りに声がかかり、愛知と静岡を行き来する生活である。

「社会との繋がりが希薄になると、物忘れがひどくなるからね」と、温厚な笑顔を見せる。

「昔は、福祉と言えば高齢者の面倒をみるというだけのイメージだった。今、さわやか愛知の事業を見ると、本当によくやっているなあと思う。」

代表のもと、協力体制がしっかりしていて、大府市の福祉業界の中で重要なポジションを占めている団体だね。後に続くNPOの活動の見本、ひいては福祉事業の基準となるべき手本を示していると思うよ。」



ご自分の人生を通して、社会的にも大きな責任を担い続けてきた重鎮のお話にも、励まされながらも、新たな肩の荷を感じました。

特に、最後のお言葉は、何よりもありがたく、心強いエールです。ありがとうございます。

次回は 児玉美津江 さんです

リニューアルOPEN



五感を刺激しながら森林浴を楽しんでいただけるそんな運動できる空間を楽しんでいただきたい

「もっと楽しく」「もっと笑顔で」スタッフも利用者さんも過ごせるような施設にしたい、代表との他愛もない会話が昨年末。「あなたたちが楽しい事、喜んでもらえる事をやってみなさい」という素敵な言葉から、なんと2019年の春に着工。何度もなんども検討を重ね、ようやく完成しました。常に鳥のさえずりや川のせせらぎを感じる空間に、ご利用者様からも「癒される」「ここに来ると気持ちが楽になる」など様々なお言葉をいただけます。「もっと楽しく・笑顔で」過ごせる空間に、これからもさらに成長し続けたいと思います。



調理レク

いつもおいしい野菜を作ってください近藤さんに感謝してさつま芋で芋きんとん、茎できんぴら、スイートパイなどたくさんの料理を皆さんと作りました。手際の良さはもちろんですが味付けもやっぱり上手美味しかったですね。次は何を作りましょうか？皆さんのリクエストにお応えしながら、おいしくまた楽しい時間を一緒に作っていきましょうね

